

NPO法人みんなでつくる自然史博物館・香川（まんのう町）の生物部員で高松西高3年の飯間湧斗さん（18）＝高松市＝が昨春、同市塩江町の相栗峠で「オオツチハンミョウ」を発見した。県内初。2月に昆虫同好会の会誌で発表した。

オオツチハンミョウ発見

飯間さん（高松西高3年）県内初

昨春、高松・塩江 昆虫同好会誌で発表

同NPOによると、ツチハンミョウは国内で8種類が確認され、県内ではヒメツチハンミョウとキュウシュウツチハンミョウの2種類が見つかっている。

ゴキブリが好きで、採集や飼育を行っている飯間さんは、昨年4月13日夜、キスジゴキブリを探していた際、これまでに見

同市の会社員脇悠太さん（28）が写真を確認し、まだ県内で確認されていない種類と推測。翌日に同じ場所に向き、オオツチハンミョウを採集した。

オオツチハンミョウは体長十数センチで、標高の高い寒冷地の草むらでハチに寄生して育つ。

たヒメツチハンミョウより明らかに大きなツチハンミョウを複数発見し、写真を撮った。

飯間さんは2024年にも県内で4年ぶりとなるツチゴキブリを発見したばかり。「また一つ、昆虫界の解明に関わられてうれしい」と喜んだ。4月からは

四国では愛媛県の石鎚山系などで生息。猛毒を持ち、触れると水

生物部員の指導役で、県内の昆虫の調査や研究を行っている

「ゴキブリの分類の研究をするつもり」と新たな目標を掲げ、既に県外の研究者とも交流しているという。

同NPO研究員の松本慶一さん（54）は「オオツチハンミョウの興味深い生態を探る扉が開いた」と大発見をたたえ、「広い視点を持ち、体に気を付けて自分の好きな道を突き進んで」と自身と同じ大学に進む飯間さんにエールを送った。

東京農大農学部に進学予定で、

「オオツチハンミョウは体長十数センチで、標高の高い寒冷地の草むらでハチに寄生して育つ。四国では愛媛県の石鎚山系などで生息。猛毒を持ち、触れると水



オオツチハンミョウ（左端）の標本を手に笑顔を見せる飯間さん。中央はヒメツチハンミョウ、右端は丸まるゴキブリ

同市の会社員脇悠太さん（28）が写真を確認し、まだ県内で確認されていない種類と推測。翌日に同じ場所に向き、オオツチハンミョウを採集した。